

# 農学部・生物資源環境科学府・農学研究院 第4期中期目標・中期計画

## 部局の中期目標・中期計画

### 前文（部局の基本的な目標）

農学研究院、生物資源環境科学府及び農学部は、「生命、水、土、森、そして地球から学び得た英知を結集し、人類の財産として次世代へ伝え、人類と地球環境の豊かな共存を目指して、進化する農学を実現する」ことをミッションとし、生物資源・環境に関する教育研究、国際協力、社会連携を通して、食料・生活資材の安定供給、生物生存環境の保全及び人類の健康と福祉に貢献することを目指している。

このミッションを果たすために、農学は生物学・化学・物理学・社会科学に渡る多様な学問分野を包含し、これら学問分野が総合して、地域及び地球規模の実問題解決に取り組む必要がある。一方で、農学は、生物生産、生物機能、生物環境等に関する新学術の開拓も推進し、持続可能な開発目標の達成に必要なイノベーションの創出にも貢献する。

教育面では学部・修士課程において柔軟な考えを持った高度専門職業人の育成の役割を果たすとともに、博士後期課程では次世代農学を開拓して指導的役割を果たす研究者や教育従事者の育成の役割を果たす。また、特にグローバルな視野を持って、世界を舞台に活躍できる人材の育成を重要視し、日本人学生と留学生がともに学ぶ国際的なカリキュラムを絶えず改善する。

さらに、産官学連携に基づく受託研究・共同研究の実施や寄附講座・連携講座・共同研究部門の設置を進めて研究成果の社会実装に貢献するほか、国・地方自治体の科学技術政策立案にも積極的に参画し、農学の総合知をもって我が国の発展に貢献する。

対応する全学の中期計画番号	連番	中期目標	連番	中期計画	成果指標	
					取組	成果
<b>I 教育研究の質の向上に関する事項</b>						
<b>1. 社会との共創+大学独自目標</b>						
1	1	農学研究院の研究教育機能を強化・活性化させることで、新たな世界トップクラスの研究領域を発掘し、生物資源・生物環境に関する総合知を創り出す知のプラットフォームになるとともに、社会的課題解決に向けた総合知の創出・活用を促進する。	1	「脱炭素」、「医療・健康」、「環境・食料」の3領域に関連する研究に加え、新たな研究上の強みが創出できる農学関連分野を発掘し、世界をリードする研究分野へと発展させるための基盤を整備する。特に、農学が備えるべき基盤的な学問分野の多様性を担保しながら、先端的分野の創出を可能とする組織・制度を構築する。	【取組1】第3期までの「研究の4本柱」を再評価し、重点領域の再定義を組織的に進めるとともに本部局が備えるべき教育研究の基盤分野を定義  【取組2】先端的な分野の創出を促す組織・制度を整備	<定性的指標> 【成果1】新重点領域、基盤的分野の策定状況  【成果2】先端的学問分野の創出を促す人事制度の整備状況
2			2	農学研究院の強み・特色を生かして取り組むべき社会的課題を提案・解決するために、「九大版地域連携プラットフォーム」を活用し、産官学連携及び地域連携を強化する。	【取組1】産官学・地域連携の促進に必要な部局内組織の整備及び産官との連携協議会の活性化  【取組2】産官学・地域連携を効率化する広報体制の整備	<定性的指標> 【成果1】産官学・地域連携を促進させる部局内組織の整備状況・産官学・地域との連携協議会の開催状況  【成果2】農学研究院Webサイトにおける研究シーズ等の公開・更新状況
3	2	データ駆動型農学を基盤とする教育・研究体制を構築し、持続的発展可能社会の実現に向けた農学DXの推進と農林水産業の新価値を創出する。	3	オンキャンパス農場及びスマート農業関連施設を特色ある教育・研究DX拠点として整備し、農学DXの実践の場として活用する。	【取組1】オンキャンパス農場及びスマート農業関連施設等へのDX技術の導入  【取組2】学術と実践が融合した農学DX拠点を舞台とする特色ある教育・研究推進への支援	<定性的指標> 【成果1】データ駆動型農学研究の実施件数、学術論文数、特許出願数、競争的資金の採択件数  【成果2】農学DX拠点を活かした教育実施件数、共同研究件数、産官学連携実績、地域連携実績

中期計画番号 対応する全学の 中期計画番号	連番	中期目標	連番	中期計画	成果指標	
					取組	成果
4	3	農学分野横断的な生物・数理系データサイエンス教育を拡充し、データ駆動型農学の素養を修得した学生及び若手研究者を輩出する。教育・研究・事務部門の業務遂行全般をDX技術で高効率化し、人材・組織の活性化を図る。	4	生物・数理系データサイエンスに関する学部・学府共通科目を提供する。DX技術やクラウドサービス等を積極的に利用し、長時間労働や働く場所に依存しない教育・研究・事務体制を構築することで、個人・組織の時間効率を最大化する。	<p>【取組1】生物・数理系データサイエンス教育の拡充と学部・学府共通科目化</p> <p>【取組2】デジタルプラットフォームの基盤整備と活用</p> <p>【取組3】教育・研究・事務等に関わる組織情報のクラウド管理の推進とテレワーク環境の整備</p> <p>【取組4】事務関連作業内容の見直しとDX技術の積極導入による効率化</p>	<p>&lt;定性的指標&gt; 【成果1】生物・数理系データサイエンス教育の拡充と学部・学府共通科目数</p> <p>【成果2】デジタルプラットフォームの基盤整備と活用実績</p> <p>【成果3】教育・研究・事務等に関わる組織情報のクラウド管理及びテレワークの実施状況</p> <p>【成果4】事務作業内容の見直しとDX技術の積極導入による効率化の状況と効果</p>
5	4	世界をリードする農学の研究・教育拠点及びネットワーク形成のため、研究環境の整備とともに、農学研究院の強みを発展させ、農学研究の多様性を活かして卓越した異分野融合的な研究の推進と国際展開を図り、持続可能な社会の実現に貢献する。	5	アジア・オセアニア研究教育機構と連携した活動を推進するとともに、研究の4本柱である新農学生命科学、環境科学、国際アグリフードシステム科学、食科学に関する研究分野の伸長に加え、多様な研究シーズを活用して、脱炭素、健康、環境、食料に関する諸問題の解決に資する異分野融合研究を推進するため、異分野間の研究情報交換、融合研究計画の策定を推進する体制を整備する。	<p>【取組】異分野研究情報交換、融合研究計画の策定を推進する体制を整備する</p>	<p>&lt;定性的指標&gt; 【成果】研究戦略委員会の下でのWG設置状況と活動状況 ・異分野研究情報交換、融合研究計画の策定状況</p>
6			6	カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所と連携した研究及び研究の4本柱に関する研究の国際化ならびに異分野融合研究の国際化を推進するため、海外からの研究者受入を積極的に行うとともに、海外の学術交流協定校にDXを活用した研究サテライトを設置し、戦略的に国際共同研究を推進する。	<p>【取組1】海外からトップレベルの研究者を招聘し、研究交流を実施</p> <p>【取組2】研究サテライトを設置して海外共同研究を推進し、国際共著論文数、高IF学術雑誌の掲載論文数を増やす</p>	<p>&lt;定性的指標&gt; 【成果1】海外からトップレベルの研究者の招聘数と研究交流の実績</p> <p>【成果2】 &lt;定性的指標&gt; ・研究サテライト設置状況 &lt;定量的指標&gt; ・直近5年の国際共著論文数を第4期中期目標期間中に800報 &lt;定量的指標&gt; ・直近5年のTOP10%ジャーナル論文数を第4期中期目標期間中に600報</p>
7	5	国際ネットワーク形成による戦略的な取り組みによって研究交流を推進し、国際的な研究教育力を強化する。	7	交流協定校等の海外拠点、九州大学の海外オフィスを利用した広報活動を行うとともに、国際的な大学連携コンソーシアムを活用した国際共同研究、国際共同イベント開催等によって研究教育活動の活性化を促進する。	<p>【取組1】海外への広報活動</p> <p>【取組2】海外からの視察訪問等受入</p> <p>【取組3】国際共同イベント開催</p>	<p>&lt;定性的指標&gt; 【成果1】海外への広報活動状況</p> <p>【成果2】海外からの視察訪問等受入状況</p> <p>【成果3】イベント開催実績及び参加状況</p>
8	6	将来構想を実現するための大学改革活性化制度をさらに機動的に運用し、部局における研究力強化をはかる。	8	特に優秀な若手教員に対して本研究院独自の「スター研究者育成の加速化プログラム」を新設するなど、研究展開を支援する。	<p>【取組】「スター研究者育成の加速化プログラム」の新設</p>	<p>&lt;定性的指標&gt; 【成果】「スター研究者育成の加速化プログラム」の設置状況とプログラム実施状況</p>

対応する全学の 中期計画番号	連番	中期目標	連番	中期計画	成果指標	
					取組	成果
9	7	農学研究院の多様な研究成果情報を発信し、産学官連携機能を強化して、脱炭素、健康、環境、食料に関する諸問題の解決に資する研究成果の事業化、研究とイノベーションの好循環システムを構築する	9	科学技術イノベーションの創出を目的とし、地域の将来を担う農林水産・食品研究機関及び関連企業との連携強化のため、社会人博士受入れ支援を含む制度や仕組みを整備する。 農学研究院の多様な研究技術シーズを魅力的に発信するWebサイトを整備し、研究機関及び民間企業との共同研究など事業化を視野に入れた新規プロジェクト創出を目指す。	<p>【取組1】研究機関、民間企業との共同研究件数及び社会人博士受入れ数増加のため、近隣自治体の農林水産・食品研究機関、農研機構および企業との研究交流を継続して行う</p> <p>【取組2】社会人博士受入れ数増加のため、就学支援制度の周知に努めるとともに、部局独自の社会人博士研究支援制度の構築を目指す</p> <p>【取組3】企業等からの技術相談件数、成果発表会参加民間企業数、研究成果公開サイト訪問数を増やすため、Webサイトの整備と広報活動の強化を実施</p>	<p>&lt;定性的指標&gt;</p> <p>【成果1】近隣自治体の農林水産・食品研究機関、農研機構及び企業との研究交流状況</p> <p>【成果2】就学支援制度の周知の状況と部局独自の社会人博士研究支援制度の構築状況</p> <p>【成果3】企業等からの技術相談件数、成果発表会参加民間企業数、研究成果公開サイト訪問数及び、Webサイトの整備と広報活動状況</p>
10			10	近隣自治体の農林水産・食品研究機関、農研機構、企業、産学官連携推進協議会、九大TLO及び株式会社九大アグリベンチャー（QAV）と等との密接な共働による民間への技術移転、研究成果を生かした事業支援および6次産業化支援を行うと共にベンチャー創出を目指す。	<p>【取組1】糸島農業産学官連携推進協議会「アグリコラボいとしま」との共働事業を実施する</p> <p>【取組2】ベンチャー創出件数を増やすため、株式会社九大アグリベンチャー（QAV）への情報提供、QAVによるヒアリングを継続して行うなど連携強化を図る</p>	<p>&lt;定性的指標&gt;</p> <p>【成果1】糸島農業産学官連携推進協議会「アグリコラボいとしま」との共働件数（講演会、ワークショップ等の開催回数）、教員の参加者数</p> <p>【成果2】株式会社九大アグリベンチャー（QAV）への情報提供、同社によるヒアリング実績</p>
11			11	産学官連携を戦略的、組織的に推進するため、研究戦略委員会に「連携推進WG」を設置する。	<p>【取組】研究戦略委員会に「連携推進WG」を設置して九大TLO及びQAVとの定期的な情報交換、協議を行い、研究成果の技術移転、事業支援、起業化を推進する</p>	<p>&lt;定性的指標&gt;</p> <p>【成果】組織的な産学官連携体制の整備及び活動状況</p>
<b>2. 教育</b>						
12	8	国内及び国際社会の変化に柔軟に対応できる人材養成と、多様な価値観やそれに対する寛容性を持ち合わせた人材育成を目的とした教育環境の整備と教育プログラムの充実を図る。	12	教育環境の国際化をさらに推進し、日本人コースと国際コース学生のクラスシェア拡大を図り、国際農学フロンティア教育プログラム（副専攻）による分野横断型教育の促進と自己点検・評価・改善を実施する。	<p>【取組1】全講義科目のE/J科目化</p> <p>【取組2】日本人コースE科目のクラスシェア拡充（留学生向け）</p> <p>【取組3】国際コース博士科目のクラスシェア拡充（日本人向け）</p> <p>【取組4】学府共通科目・副専攻科目の受講推奨</p> <p>【取組5】副専攻を含む教育プログラムの自己点検・評価体制の構築と年次改善</p> <p>【取組6】JST次世代研究者挑戦プログラムへの参加推奨</p>	<p>&lt;定性的指標&gt;</p> <p>【成果1】E科目・E/J科目数の増加</p> <p>【成果2】クラスシェア科目数の増加</p> <p>【成果3】学府共通科目・副専攻受講者数の増加</p> <p>【成果4】修了生の満足度の向上</p> <p>【成果5】学位の質とGPAの向上</p> <p>【成果6】JST次世代研究者挑戦プログラムへの参加者数の増加</p>

中期計画番号 対応する全学の 中期計画番号	連番	中期目標	連番	中期計画	成果指標	
					取組	成果
13	9	農学における世界的視野、自律的学習と課題設定・問題解決能力、行動力とリーダーシップを備えた学士を育成するため、学士課程教育プログラムを整備・改善し、一貫した学士課程教育を実施する。	13	e-ラーニングシステムを最大限に活用し、低年次学生への情報発信と専攻教育活動への早期参加を促進することで、基幹教育と専攻教育の有機的接続を強め、学士教育の高度化と効率化を推進する。	<p>【取組1】Moodle等を活用した低年次学生への情報発信</p> <p>【取組2】ゼミ等の研究室活動をオンライン公開し、研究への動機づけを促進</p> <p>【取組3】学部学生の間・卒業時アンケート調査と分析・改善</p> <p>【取組4】基幹教育との接続を含む専攻教育プログラムの自己点検・評価体制の構築と年次改善</p>	<p>&lt;定性的指標&gt;</p> <p>【成果1】低年次学生との接点拡充</p> <p>【成果2】研究への早期の動機づけによる学生の意欲向上</p> <p>【成果3】基幹教育と有機的に接続した専攻教育の実施数の増加</p> <p>【成果4】卒業生の満足度の向上・学士の質とGPAの向上</p>
14	10	未来の農学を切り拓く、多様で高度な知のプロフェッショナルを育成するための教育プログラムを充実させ、博士(農学)に相応しい学術的卓越性とグローバル社会での将来性を保証する学位認定制度及び学位の質保証体制を確立する。	14	優れた博士人材を育成・輩出するための教育プログラムの構築・改善に向け、厳格な定員管理を行った上で、自己点検・評価体制を確立する。農学及びその関連分野の専門家を外部審査員として参画させ、博士学位の質保証を行う。	<p>【取組1】博士課程学生の間・修了時アンケート調査と分析・改善</p> <p>【取組2】教育プログラムの自己点検・評価体制の構築と年次改善</p> <p>【取組3】国内外/産業界のアドバイザー委員の導入</p> <p>【取組4】博士学位審査における外部審査員の導入</p>	<p>&lt;定性的指標&gt;</p> <p>【成果1】博士取得者の満足度の向上</p> <p>【成果2】学位の質と授与率の向上</p> <p>【成果3】国内外/産業界のアドバイザー委員数の増加</p> <p>【成果4】博士学位審査における外部審査員数の増加</p>
15	11	予測不能な時代でも理想の未来をデザインできる知のプロフェッショナルを育成するために、博士課程学生の環境改善、処遇向上および多様なキャリアパス形成支援を行う。	15	生活支援の取り組みを拡充することで学生が安心して研究に専念できる環境を整備するとともに、多様なキャリアパスを形成するための支援を行う。	<p>【取組1】DC1/DC2申請支援</p> <p>【取組2】TF制度の利用促進</p> <p>【取組3】学府奨学金制度の運用</p> <p>【取組4】JST等の学生支援事業の応募支援</p> <p>【取組5】キャリアパス学府共通科目の充実</p>	<p>&lt;定性的指標&gt;</p> <p>【成果1】DC1/DC2採択率の向上</p> <p>【成果2】TF制度利用者数の増加</p> <p>【成果3】持続的な奨学生の採用</p> <p>【成果4】JST支援等の採択数の増加</p> <p>【成果5】キャリアパス科目の受講者数の増加</p>

対応する全学の 中期計画番号	連番	中期目標	連番	中期計画	成果指標	
					取組	成果
16	12	日本人学生の国際性向上、優秀な留学生の獲得と専門性向上をはかるための国際共修プログラムの推進により、課題解決能力、グローバルリーダーシップを涵養し、グローバル化への対応力に優れた人材を養成する。	16	部局独自の短期派遣・受け入れプログラムを戦略的・継続的に推進するとともに、webを利用した英語力強化プログラムによる英語力強化をはかる。この成果を利用して学生の海外インターンシップなどの海外体験の機会を提供する。留学機会が得られない時勢においても非脆弱的に国際教育機会を提供できるCOIL型授業の拡充を進める。ダブル・ディグリー(DD)プログラム締結校との実施に向けた協議、新たなDD締結に向けた取組を進める。これらのプログラムについて、海外の部局同窓会を活用した情報発信やプロモーション活動を行う。	【取組1】短期派遣プログラムの実施 【取組2】短期受入プログラムの実施 【取組3】webを利用した英語力強化プログラムの実施 【取組4】海外インターンシップ派遣の実施 【取組5】COIL型授業の実施 【取組6】DDプログラムの実施 【取組7】海外の部局同窓会を活用した情報発信やプロモーション活動	<定性的指標> 【成果1】短期派遣プログラムの実施状況 【成果2】短期受入プログラムの実施状況 【成果3】webを利用した英語力強化プログラムの実施状況 【成果4】海外インターンシップ派遣状況 【成果5】COIL型授業の実施状況 【成果6】DDプログラムの実施状況 【取組7】海外の部局同窓会を活用した情報発信やプロモーション活動実績
17	13	キャンパスの国際化を推進するため、留学生や外国人教員等の視点を踏まえた環境の整備と二言語化の取組を行い、外国人構成員の教育研究環境を向上させる。	17	留学生・日本人学生を含む学生組織をTA等として採用し、部局国際化の推進に資する活動を行う。外国人教員・日本人教員による英語による会議などを実施し、外国人教員に教育・研究組織への積極的な参画を促す。	【取組1】留学生・日本人学生が混在したグループを組織し、学部内の活動に参画させる。 【取組2】英語による国際コース教員会議の実施及び部局Webサイト(英語)の充実化	<定性的指標> 【取組1】留学生・日本人学生が混在したグループの組織化及び活動状況 【取組2】英語による国際コース教員会議の実施及び部局Webサイト(英語)の整備状況
<b>3. 研究</b>						
18	14	卓越した基礎研究の推進とともに、農学研究の多様性を生かした新分野及び異分野融合研究の開始を促進するため、研究環境を整備し、新分野及び異分野融合研究支援体制を整備する。	18	新農学生命科学、環境科学、国際アグリフードシステム科学、食科学における独創的な基礎研究及び時代の要請に応じた研究の推進とともに、農学研究院の多様性を生かした異分野融合研究を支援するため、概算要求設備、研究環境設備事業等への申請を戦略的に行う。 加えて、異分野融合研究計画を募集し、研究院内コンペティションにより優秀な研究計画に対して支援を行い、新たな研究分野の創出を目指す制度を構築する。	【取組1】研究教育支援センター主催の最先端研究装置説明会を継続して行う 【取組2】研究戦略委員会の主導により概算要求設備申請等の戦略的な計画を行う 【取組3】異分野融合研究支援制度について検討し、支援制度を構築して支援を行う	<定性的指標> 【成果1】研究教育支援センター主催の最先端研究装置説明会の開催実績及び参加状況 【成果2】戦略的な計画に基づく研究戦略委員会の主導による概算要求設備申請等の状況 【成果3】異分野融合研究支援制度の構築と支援状況
19			19	農学研究院の多様な研究成果を効果的に発信するため、既存の研究成果データベース及び技術シーズデータベースの再編、継続的な更新と関連機関、企業等への戦略的かつ的確な情報発信を行う。	【取組1】既存のデータベースを再編し、継続して更新を行う 【取組2】研究機関・企業等への的確な研究成果情報発信を戦略的に継続して行う	<定性的指標> 【成果1】データベース再編状況 【成果2】研究機関・企業等への研究成果情報発信状況

対応する全学の 中期計画番号	連番	中期目標	連番	中期計画	成果指標	
					取組	成果
20	15	若手研究者のキャリアパスや流動性を高めるため、若手研究者支援制度を充実させると共に、研究成果の起業化を支援する。	20	活性化制度で採用したテニユア助教などの研究成果が著しい場合などに適用される在外研究長期派遣、早期昇進制度などを整備した「スター研究者育成の加速化プログラム」の新設など、若手研究者支援事業を充実させる。株式会社九大アグリベンチャー(QAV)と連携して、博士課程学生を含む若手研究者の起業シーズを発掘して起業化を支援する。	<p>【取組1】若手キャリア支援制度「スター研究者育成の加速化プログラム」の新設</p> <p>【取組2】QAVとの協働により、若手研究者の民間との共同研究への参加につながる機会の提供、若手研究者の起業化支援を継続して行う</p> <p>【取組3】「次世代研究者挑戦的研究プログラム」等を活用して博士課程学生の異分野との協働、民間との共同研究への参画の機会を提供する</p>	<p>&lt;定性的指標&gt;</p> <p>【成果1】「スター研究者育成の加速化プログラム」の設置状況</p> <p>【成果2】QAVとの協働による、若手研究者の民間との共同研究への参加につながる機会の提供、若手研究者の起業化支援の状況</p> <p>【成果3】「次世代研究者挑戦的研究プログラム」等を活用した博士課程学生の異分野との協働、民間との共同研究への参画機会の提供状況</p>
21	16	若手、女性、外国人など研究者の多様性を高めることで、知の集積拠点として、持続的に新たな価値を創出し、発展し続けるための基盤を構築する。	21	組織の持続的な発展の基盤となるダイバーシティ・エクイティ・インクルージョンを推進するため、多様な経歴等を有する若手・女性・外国人研究者などの人材を、本学の持続的人材育成戦略に基づき計画的に確保・育成する。	<p>【取組1】男女共同参画委員会を「農学研究院ダイバーシティ委員会(仮称)」に再編し、ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョンの推進策を立案・実施する体制を整備する</p> <p>【取組2】若手・女性・外国人教員の採用を促進させる人事制度・人事ポイント運用制度を令和6年度までに整備する</p> <p>【取組3】定年退職教員の授業担当への活用など、若手助教の雇用促進と研究時間確保につながる環境整備を進める</p>	<p>&lt;定性的指標&gt;</p> <p>【成果1】「農学研究院ダイバーシティ委員会(仮称)」の整備状況</p> <p>【成果2】・承継教員・有期雇用教員別の目標値の設定と改善状況 ・若手研究者比率の向上 ・女性研究者比率の向上 ・外国人等研究者比率の向上</p> <p>【成果3】定年退職教員による授業担当状況</p>
<b>4. その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項</b>						
22	17	異分野融合研究や新学術研究をの創出に向けた教育研究機能の強化・拡張を図る。	22	異分野融合研究や新たな学術研究を促進させるための共同利用・共同研究拠点の整備と研究者・技術者交流を推進する。	<p>【取組1】研究教育支援センターの機能を強化するため、機器・設備の整備、運営の円滑化を推進する</p> <p>【取組2】多様な農学関連分野間で研究情報を共有する、研究者・技術者交流の場を創設する</p>	<p>&lt;定性的指標&gt;</p> <p>【成果1】共同利用機器の整備・拡充状況、利用実績、利用による研究成果</p> <p>【成果2】研究交流セミナー等の開催状況、異分野融合研究の実施状況</p>

対応する全学の 中期計画番号	連番	中期目標	連番	中期計画	成果指標	
					取組	成果
<b>II 業務運営の改善及び効率化に関する事項</b>						
28	18	農学研究院等の機能を最大限発揮するための基盤となる関連施設及び設備について、保有資産を最大限活用するとともに、部局マネジメントによる戦略的な共有スペースの整備・供用を進め、地域・社会・世界に一層貢献していくための機能強化を図る。	23	農学研究院等における戦略的共有レンタルスペースの有効活用を促進する。さらに、農学研究院等が保有する施設を適切な状態で維持し、最大限活用するため、老朽化した施設・設備の改善整備を着実に推進する。	【取組1】レンタルスペース使用者の流動化の促進 【取組2】レンタルスペースへのニーズの調査・把握	<定性的指標> 【成果1】レンタルスペースの利用状況 ・レンタルスペース使用による研究・教育成果(各年度の成果報告書)の提出状況 【成果2】施設劣化診断を踏まえた建物等の改修の実施又は整備計画の策定
<b>III 財務内容の改善に関する事項</b>						
29	19	外部資金や寄附金その他を効果的に獲得する基盤を強化する。	24	外部資金等を効果的に獲得するため、積極的な情報収集・共有ならびに研究費申請などの支援機能を強化する。同窓会等を通じた部局への寄附プロモーションの強化。	【取組1】外部資金獲得向上をめざすFDの開催 【取組2】寄附金獲得のための新たなアプローチの構築	<定性的指標> 【成果1】外部資金獲得向上をめざすFDの開催実績及び参加状況 【成果2】寄附金のWEB申し込みスキームの導入 ・寄付プロモーション活動状況
31	20	大学のビジョンや戦略を実現するための好循環を創出する部局独自の戦略的な配分を確立する。	25	外部資金の獲得、大学院生受け入れを促進するため、部局独自の予算配分を行う。	【取組】外部資金の獲得、大学院生の定員充足率に対するインセンティブ強化を図るため、部局において講座への傾斜配分を実施	<定性的指標> 【成果】科研費への応募状況による傾斜配分及び大学院充足率による傾斜配分
<b>IV 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項</b>						
33	21	外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づいて、自己点検・評価の結果を可視化する。教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行う。	26	部局内外の多様なステークホルダーに対し、本部局の教育研究活動・産学連携活動の魅力的・積極的な発信及び意見交換等を進める。	【取組1】ステークホルダーに対する情報提供と意見聴取・意見交換の体制強化と実施 【取組2】メディアやWebサイト、SNSを活用した情報発信の実施と閲覧状況の把握	<定性的指標> 【成果1】多様なステークホルダーからの意見収集と活用システムの確立 ・農学研究院発プレスリリース件数 【成果2】農学研究院Webサイトの整備とWebサイトを利用した広報体制の確立 ・SNSを活用した情報発信の実施とフォローア一数